

インフルエンザが流行して学級閉鎖になったクラスもありましたが、今日の終業式が全クラス揃って迎えられることを嬉しく思います。

さて、今日12月24日は何の日でしょうか？今回は答えられない人はないと思いますが、日本では七面鳥が手に入らないので、フライドチキンやローストチキンを食べるようになったようです。

俳優の賀来賢人（かくけん）が、カーネル・サンダースの役で、「今日はケンタッキーにしない？」というCMでおなじみのケンタッキー・フライドチキンの創業者のお話しをします。カーネル・サンダースの人形が、大阪の道頓堀川から引き上げられたことで知っている人もあるかもしれません。カーネル・サンダースは、本名はハーランド・サンダースというアメリカの実業家で、「カーネル」はケンタッキー州知事から贈られた名誉称号です。

カーネル・サンダースは、65歳で事業に失敗します。静かな余生を選ぶか、新たな挑戦をするか・・・という状態になりました。

カーネル・サンダースは、アメリカのケンタッキー州南部の国道沿いでレストランを経営していました。客は旅行者が多くとても評判が良く、売り上げは順調に伸びていました。人気が高まって、当時では珍しい24時間営業にして、店舗を増やしていきました。しかし、新たに高速道路が建設されて、レストランの前の国道を走る車が激減して、経営が行き詰まりました。レストランを売却し、税金と未払いの代金を払うとお金はほとんど残らず、65歳で全財産を失いました。普通なら、ゆっくりと余生を送るのではないかと思います、彼はあきらめませんでした。「人が来なくなったら、人のいる所に売りに行けばよいのでは？」と思ったようです。

「レストランで一番人気だったフライドチキンを売りに行こう」、「自分が開発したフライドチキンを、他のレストランのメニューに加えてもらおう」と、レストランの経営人や調理人に、フライドチキンの美味しさを知らせようと、車に圧力釜と独自のスパイスを載せてレストランを訪ねる旅に出ました。しかし、見知らぬ老人の話を真剣に聞く人はなかなか現われず、訪問しても断られ、千軒を超えるレストランを訪ねたようです。断られた数は1009件だったそうです。自分のフライドチキンの味を信じていたので、決して諦めず、やがて誰も予想しなかった大反響になりました。

カーネル・サンダースは、1980年に90歳で亡くなっていますが、この年には、ケンタッキー・フライドチキンはアメリカだけでなく、世界48カ国6千店舗まで拡大しています。今では世界145ヶ国以上に約2万4千店舗あり、日本には約1300店舗あります。

日本でも、創業者カーネル・サンダースの人形や看板を見かけます。

白い上下のスーツに黒のネクタイ、腕にステッキを掛けた白髪の老人です。あの笑顔は、夢に向かって生きる満足感の現れだと思います。

65歳であれば、普通は退職してゆっくりと過ごす歳かと思いますが、自分を信じて、決して諦めなかった精神を見習いたいと思います。若い皆さんは、可能性が一杯ありますから、可能性を信じて諦めずに目標に向かって頑張りたいと思います。

さて、1学期の終業式でも伝えましたが、今生徒会が主体となって校則の見直しを検討してアンケートを行っています。校則は自由になるために変更するものではありません。変更する限りは自覚と責任が必要になりますので、佐用高校として相応しい校則になるように見直しを一緒に考えていきたいと思っています。また、1月に登校したら教室の黒板は、ホワイトボードに変わっているかと思っています。皆さんの教育環境の向上にも努めたいと思っています。

明日から2週間の冬休みですが、日頃の行動や1年間の行動を見直す機会にするとともに、新年の目標を決めて欲しいと思います。「一年の計は、元旦にあり」と言われます。1年間の計画や目標は、年初めの元旦の朝である元旦に、「今年の目標は〇〇する」とか「今年は●●を実現する」など、カウントダウンした後は、心に刻んで新年を迎えてください。

3年生は高校生活最後の冬休みです。これから進路を決める人は、どんな思いで、どれだけ自分に打ち勝てるかが勝負の分かれ目です。一生でいちばんしんどい時期かと思いますが、乗り越えてこそ光が見えると思います。進路の決まった人は、時間はたくさんあると思いますが、今しかできないことや卒業後の自分を考えて、準備期間にしてください。

先日、成績会議が行われて、皆さんの成績について見せてもらいました。頑張っている人もありますが、残念ながら欠点を取ったり、欠席が多くて残り1日も休めない人もあります。テストだけでなく提出物や授業態度など、短い3学期で精一杯取り返してください。ここにいる生徒全員が、卒業して進級できるように頑張ってください。

自分に負けず、健康や自分の命を大切にするとともに、SNSの使い方にも十分気を付けて、人に対する思いやりを持って冬休みを過ごしてください。また新年にお会いしましょう。